

柏南ロータリークラブ 会報

2025-2026 片岡達生年度



よいことのために
手を取り合おう



第46代会長 片岡 達生
幹事 井畑 和士 齊藤 洋子

第2043回 2026年4月7日 (火)

会長挨拶

本日の会長挨拶では、当クラブで導入している「法人会員制度」について、皆様にあらためて周知させていただきたいと思っております。ロータリーの活動に関心はあっても、「多忙で毎週の出席は難しい」と入会をためらっている経営者の方に、とてもお勧めしやすい制度です。

当柏南RCの法人会員は、1法人につき最大5名まで登録でき、うち1名が「代表会員」、最大4名が「補欠会員」となります。お力添えをお願いいたします。

まず「代表会員」ですが、こちらは一般の個人会員と扱いは同じです。会費も同額で、国際ロータリー(RI)の正会員として登録され、投票権を持ち、クラブの役員に就くこともできます。一般の会員と大きく異なるのが「補欠会員」です。できること・できないことを明確にお伝えします。

補欠会員が「できないこと」

- 国際ロータリーへの登録や、クラブ会員名簿への記載はされません(身分上は公式な「ロータリアン」としての扱いにはなりません)。
- クラブの役職に就任することはできません。
- クラブ会費やRI人頭分担金は課されません。
- 原則としてクラブでの議決権はありません。

補欠会員が「できること」

- 代表会員の代理、または代表会員と一緒に当クラブの例会に出席できます(食事代等は実費請求となります)。
- クラブ内の委員会活動や、奉仕行事などに参加することができます。
- 代表会員が欠席する際、委任を受けることで代理として投票することができます。

補欠会員の注意点

- 他クラブの例会への出席や、地区大会への参加する場合、訪問前に「柏南RCの補欠会員であり、RI正会員ではない」旨をお伝えいただくようお願いいたします。

このように、法人内で出席や参加の負担を分け合いながら、他クラブとの交流や地区の行事も含め、ロータリーの魅力を広く体験していただけるのがこの制度です。補欠会員の方も、私たちの大切な仲間として一緒に活動していただけます。皆様のお知り合いで、地域に貢献したいとお考えの企業や団体がありましたら、ぜひこの法人会員制度をご案内いただき、クラブのさらなる活性化にお力添えをお願いいたします。



奉仕プロジェクト（はぐぐみの杜柏）振り返り

本日の卓話では、本年度の奉仕プロジェクト「児童養護施設はぐぐみの杜かしわ支援プロジェクト」についてご報告いたします。本プロジェクトは、2023年に柏市酒井根に開設された児童養護施設「はぐぐみの杜かしわ」を対象に、2月から3月にかけて4つの活動を実施したものです。楽器寄贈&音楽体験（2/14）、PC寄贈&IT体験会（2/22）、キネマ旬報シアター映画上映会（3/14）、そして施設年度末行事「虹色の会」の開催支援（3/27）。いずれも施設の職員や外部協力者の方々と一緒に企画を練り上げ、子どもたちの日常をより豊かにするための環境づくりを目指しました。



振り返って何より感じるのは、会員お一人おひとりの行動がこのプロジェクトを形にしたということです。猫田会員のサプライズ太鼓と電子ドラム寄贈、新保会員の粋なドリンクの振る舞い、黒滝会員の口腔ケア活動と司会進行、中澤会員による廣池学園の仲介、そしてベテラン会員のみなさまをはじめ現場に足を運んでくださった皆様。元会員の山口修代さんからの上映権利の寄贈、柏西RC田村氏や流山RC伊藤氏など他クラブの協力者の存在も、大きな力となりました。総事業費は約123万円（地区補助金約62万円＋クラブ拠出約62万円）、残金ゼロで完了しています。

そして、次年度の奉仕プロジェクトでは、ひきつづきはぐぐみの杜かしわの子どもたちを対象に、国際セラピードッグ協会との連携によるアニマルセラピー体験を提案します。当クラブチャーターメンバーである故・宮寛会員のご縁からつながったこの企画を、井畑新年度においてぜひ実現したいと考えています。ご協力いただいた全会員の皆様に、心より感謝申し上げます。
(2025-26年度会長 片岡達生)

米山奨学生／金徳財さん報告

片岡年度の米山奨学生である金徳財さん（東京理科大学創域理工学部生命生物科学科4年）が3月14日に柏西クラブ卓話、翌3月15日に地区卒業式に参加されました。

【卓話内容】

「高齢化社会に貢献できること」というタイトルで、中国・青島市出身として来日後に歩まれた高校・大学生活、そして米山奨学生としての経験が紹介されました。

柏南ロータリークラブからの温かい支援により、学業や大学院進学に向けた研究へ一層専念できていることへの感謝が述べられました。

高齢化社会で増加するアルツハイマー病などの神経変性疾患について、生物学の視点から「エピジェネティック変化」に着目した研究内容を分かりやすく解説されました。今後は研究を通じて社会に貢献するとともに、日中両国の架け橋として平和と奉仕の精神を広めていきたいとの抱負を語っていただきました。

